

委員質問・意見等

第 134 回定例会（8 月 6 日）受付分

（武本（和）委員）

● 東京電力 に対する 質問

東京電力に対して、今夏の電力需要の実態と想定が誤ったことに関して質問する。

東電は5月16日に今夏の電力需要の見通しを発表。そこには7・8月の最大需要は、平年並みの気温なら5160万kw、猛暑なら5320万kwとなっていた。

東電のでんき予報によると、7月の最大は25日（金）で4795万kw（東京気温35.6℃）であった。8月は昨日5日（火）は4980万kw（35.5℃）、今日（水）は4932万kw（34.7℃）で、5000万kwに満たない。東京気温は気象庁アメダス記録。

今夏の期間は終わっていないが、このまま推移すると推測するので、以下事項を質問する。

Q1：電力需要の構造が変わったのではないのか。東電の需要想定が過大だった理由は何か。

Q2：原発が存在する最大理由は電力需要であったはず、今夏（2011以降）の需要最大は5000万kw程度で過去最大需要の6420万kwに比べ8割程度でしかない。原発は不要でないのか。

Q3：次回以降、（夏期終了後）、最大需要が実績と乖離した理由は何かの説明を求める。

（竹内 委員）

● 新潟県 ・ 柏崎市 に対する 意見

市内の町内からヨウ素剤についての意見を預かってきました。

「ヨウ素剤は各自で保管するのではなく、いざという時は地域の知った顔から受け取る事ができると安心感もあり、ありがたい。

地域の自主防災組織等を担っている消防団などに委ね、地域の消防小屋に鍵のかかる保管庫を設置するなどしていただきたい。」

第 134 回定例会後（8 月 16 日）受付分

（徳永 委員）

● 国 に対する 質問（意見）

別紙のとおり

<運営委員会宛、定例会で発言の機会を逸したので、文書によるコメントとしたい。>

平成26年8月16日  
地域の会 委員 徳永久行

質問（意見）

特養施設などに対する放射線防護対策工事の今後について

平成25年度事業として、市内の特別養護老人ホーム2施設（なごみ荘・にしかりの里）で放射線防護対策工事が実施された。このことは、福島事故の避難時における悲惨な体験（移動中のバス車内で死亡）を踏まえれば、ハード対策としてこれを教訓にしたものであり、入所している人やその家族はもとより、地域住民にとって極めて有効な取り組みであると評価できる。

これは国庫補助事業であり、まさに「国が前面に出た」典型的なものとして大いに期待して、平成26年度の予算措置はどうか？と思っていた。

前述の特養に引き続き、まずはPAZ内の病院関係やコミセンなどの施設が、続々と対策工事を実施すべく予算が拡充されるものとばかり思っていた。もっといえば、これを契機にUPZ内の同様な施設に対しても、このような放射線防護対策工事を行うはず、いや、行うべきであるのが自然で常識的ではないか。

ところが、去る6月13日付けの新聞報道を見て唖然とした。小見出しに「原発5キロ圏の病院被ばく対策廃止、内閣府公開点検」とあり、巨額予算にしては執行の仕方があやふやだという。

ああまたか、である。いったい東京で、机上で、何がわかるというのだろうか？現地や現場を知らないで、本当に防災対策を考えられるというのか？大いに危惧を感じている。

7月2日に開催された第133回定例会で、市から「柏崎市地域防災計画（修正案）」の説明を受けたが、第2章・第12節「避難・屋内退避実施体制の整備」では、『県及び国と協力し、即時避難が容易でなく、一定期間とどまらざるを得ないことを想定し、放射線防護機能を有する施設等の整備を検討する』とある。

まさに、現実を直視した考え方であるとともに、繰り返すが福島事故の大事な教訓を適切に反映させた防災計画である。

国は何を考えているのか？ぜひ、地域の会の会場で答えてもらいたいほどである。